



園芸豆図鑑Vol.12
観葉植物室内
Indoor Plants



参考文献

- 観葉植物入門 米村浩次 農文協
- 観葉植物事典 土橋 豊 池田書店
- 花と緑の園芸百科 山と溪谷社
- インドア・ガーデン 山と溪谷社
- 山溪カラー名鑑観葉植物 山と溪谷社
- 観葉植物写真集12 (社)日本インドア・グリーン協会編 誠文堂新光社
- NHK趣味の園芸 新園芸相談9観葉植物 日本放送出版協会
- 花のくらし 講談社
- エコ・プラント B.C.ウォルバートン 主婦の友社
- 園芸植物大事典 小学館

監修

木崎信男(神奈川県立相模原公園 緑の相談所)

協力

神奈川県立相模原公園 緑の相談所 かながわグリーンハウス

発行

財団法人 相模原市みどりの協会
〒228-0828 神奈川県相模原市麻溝台2317-1 TEL042-777-2860



観葉植物室内
Indoor Plants



葉の姿、形、色、模様を楽しむ観葉植物。一般的には熱帯、亜熱帯原産の常緑植物をさすことが多いのですが、葉が美しく観賞する価値のある植物は日本にもたくさんあります。そして江戸時代からアオキやオモト、イワヒバなど葉を観賞してきた伝統があります。

欧米では室内で楽しめる植物を「インドア・プランツ(室内植物)」とか「ハウス・プランツ」と呼び、緑を室内にとりこむことにとっても熱心です。インドア・プランツという表現はあまり耳慣れないことばですが、日本でも玄関や居間やキッチンや浴室など室内で観葉植物を育てている家庭は多く、心を憩わせるだじな緑のインテリアとして、暮らしに欠かせないものになっています。

観葉植物は特定の植物群をさすわけではないので、種類は広範囲にわたり、それぞれ性質が違います。季節ごとの光の強弱や温度によって置く場所を変えたり、乾燥の具合にも気を配って、水やりの回数の調整、時には霧吹きで葉水(シリンジ)を与えたりと、こまやかな日々の手入れが必要です。その積み重ねが、わたくしたちの暮らしを心地よくしてくれます。このなかではたくさんの観葉植物の中から、人気があり、園芸店で手に入れやすく、室内で越冬をすることが必要な植物たちをご紹介します。

寄せ植え、ハンギング

色や形、組合せは自由です。ただ管理の方法、日あたりの好みや水やりの度合いが同じものにしましょう。

ミニ観葉

植え替え時や株を仕立て直す時にできる剪定した枝でさし木をして作ります。すぐ観賞できるように枝の先端部分を使うとよいでしょう。種から作ってもよいでしょう。オリヅルランはランナーからでた子株を利用します。お気に入りのカップや小さな鉢に入れて並べてみましょう。肥料は控えます。

エアプランツ

用土に植えつけなくてもいいので、いろいろな小物に接着剤で貼り付け、吊るしたり、転がしておきます。

(注 花を咲かせるためにはきちんとした管理をします)

ハイドロカルチャー

水耕栽培。一般的には土の代わりにハイドロポールを使います。管理が簡単なので、テーブルの上などで手軽に楽しめます。日光があたると緑ソウが発生して、ガラス内が緑色になります。水はハイドロポールの3分の1くらいまで与え、減ったら補充します。肥料は薄めの液肥(2000倍)

材料

植物(ガラス容器を使う場合は、直射日光を多く必要とする植物は除く)

ハイドロポール(発泡煉石 細かい穴があいていてその中の空気です)

ガラス容器(容器内の水の量を確認するため)

根腐れ防止剤(ケイ酸塩白土)

ボトルガーデン

ハイドロカルチャーで、容器をビンにしたものです。口が小さいのでピンセットなどを使ってやさしく植えつけます。

サンドアート

ハイドロポールの代わりに色砂を使ったものです。

テラリウム

半密封容器で作ります。市販のものは美しいけれど高価なので、例えば金魚鉢にガラスのフタをつけて半密封状態にしたり、工夫してみましょう。



寄せ植え 光を好むヘデラ、フィカス ベンジャミナ、アオサンゴ、サンセベリア、クロトノキなどの寄せ植え



ミニ観葉



エアプランツ



ハイドロカルチャー



ミニコラム二葉

宇宙で観葉植物
江戸時代の温室

わたしたち人間は、植物がつくってくれた環境の中で生存しています。そしてまた、緑に囲まれているととても快適な気分にもなります。

NASA(米国航空宇宙局)の発表では観葉植物は室内の汚染物質を吸収し、空気をきれいにするという調査結果が出ています。例えば、タマシダは新建材などに含まれているホルムアルデヒドを除去する能力を持っているといわれています。遙か空の上の宇宙ステーションに観葉植物が活躍する日もそう遠くないことだと言うことでしょうか。



江戸時代にも温室が作られていました。南向きの縁側の下を板で囲ったり、油障子を立てたりして、火鉢や濡れムシロなどで加温加湿しました。だんだん設備がよくなってきて、パイナップル、インドゴムノキまで育てたそうです。

パイナップル 本草図説 高木春山



アグラオネマ 'シルバーキング'

Aglaonema

アグラオネマ

サトイモ科
原産地 熱帯アジア
越冬温度 15
ふやし方 さし木、株分け
用土 水はけのよい土
(例赤玉土6川砂またはパーライト3完熟腐葉土1)
肥料 2ヶ月に1回緩効性化成肥料を置く(5-9月)

半日陰、高温多湿を好む。葉の色や模様は種類によっていろいろ。茎がツルのように地面をはうタイプと直立するタイプがある。草姿が乱れたら株分けして仕立て直す。

置き場	1-3 明るい室内	4-6 半日陰	7-12 明るい室内
水やり	ひかえめ	ふつつ	ひかえめ



Adiantum

アジアンタム

ワラビ科
原産地 熱帯から温帯
越冬温度 8-10
ふやし方 株分け(5-7月)
用土 水はけ水もちのよい土
(例赤玉土6完熟腐葉土3川砂1)
肥料 月に1回液肥をやる(5-9月)

半日陰を好み、寒さに強く、湿度不足に弱い。フワフワ揺れる薄い葉はとても乾燥しやすいので、水やりと霧吹きで湿度を保つ。直射日光、冷暖房の風を避ける。葉が枯れてしまったら、株全体を短く刈りこみ、薄い液肥を与え、ビニール袋の中に入れる。口を少しあけて霧吹きで水を与え、新芽を待つ。

置き場	1-3 明るい室内	4-6 半日陰	7-12 明るい室内
水やり	ひかえめ	ふつつ	ひかえめ



Asparagus

アスパラガス

ユリ科
原産地 熱帯アフリカ
越冬温度 5
ふやし方 2年に1回の植え替え時に株分け(5、6月)
用土 水はけ水もちのよい土(例赤玉土6完熟腐葉土3川砂1)
肥料 緩効性化成肥料を置き(5月)月に1回液肥をやる(4-9月)

光を好み(夏の直射日光は避ける)、寒さに強い。羽のような繊細な葉が美しい。光が不足すると葉が落ちたり、生育が悪くなる。枯れた茎、伸び過ぎた茎を10cmほどに切り詰めると、株元から新芽が出る。

置き場	1-3 明るい室内	4-6 半日陰	7-12 明るい室内
水やり	ひかえめ	ふつつ	ひかえめ

管理カレンダーの詳細は、最終ページの育て方を参照してください。



アフelandラ スクアラサ 'ダニア'

Aphelandra

アフelandラ

キツネノマゴ科
原産地 亜熱帯アメリカ
越冬温度 12
ふやし方 さし木(5月)植え替え(5-7月)
用土 水はけ水もちのよい土(例赤玉土6完熟腐葉土3川砂1)
肥料 月に2回液肥をやる(5-9月)

半日陰を好み、乾燥に弱い。あざやかな黄色の花と白い葉脈の走る緑の葉のコントラストが個性的である。寒さに弱いので、冬は生育をおさえ乾かし気味(水やりは1週に1回)にする。5 以下は下葉が落ちる。夜は鉢を段ボールに入れ保温。

置き場	1-3 室内・日当たり	4-6 半日陰	7-12 室内・日当たり
水やり	ひかえめ	ふつつ	ひかえめ

アナナス類 Bromeliaceae パイナップル科



グズマニア 'マグニフィカ'

チランジア 'キアネア'

フリーセア 'カロリナータ(インコアナナス)'



エクメア 'ファスキアタ'

エアプランツ

アナナスとはパイナップルを代表とするパイナップル科の総称で、多くは葉が美しく、花弁やガク(萼)、花を保護するホウ(苞)も美しい。1度開花した株は再び開花しないが、株元から子株が出て育つ。短い茎に長い葉が放射状につき、基部は重なり合って筒のようになっているので、上から水やりし、たまっている水を流す。冬は10日に1回霧吹きする。

エクメア

パイナップル科

原産地 熱帯アメリカ
越冬温度 8
ふやし方 子株が高さ15cm葉が7枚以上になったら、すぐに親株からもとの硬くなっている部分をつけて切り離し、新しい鉢に植える。(6-7月)
用土 水ゴケ
肥料 2ヶ月に1回緩効性化成肥料を置く(5-9月)

光(夏の直射日光を除く) 高温多湿を好む。斑や縞模様葉の葉は硬く、縁にトゲのあるものが多い。とても美しいホウの観賞期間は長く2、3ヶ月。

グズマニア

パイナップル科

原産地 熱帯アメリカ
越冬温度 8
ふやし方 子株が高さ15cm葉が7枚以上になったら、すぐに親株からもとの硬くなっている部分をつけて切り離し、新しい鉢に植える。(6-7月)
用土 水ゴケ
肥料 2ヶ月に1回緩効性化成肥料を置く(5-9月)

光(夏の直射日光を除く) 高温多湿を好む。葉は比較的柔らかく、縁にトゲがない。花は花茎の先に集まり、ホウの観賞期間は長く2、3ヶ月。

フリーセア

パイナップル科

原産地 ブラジル
越冬温度 8
ふやし方 子株が高さ15cm葉が7枚以上になったら、すぐに親株からもとの硬くなっている部分をつけて切り離し、新しい鉢に植える。(6-7月)
用土 水ゴケ
肥料 2ヶ月に1回緩効性化成肥料を置く(5-9月)

光(夏の直射日光を除く) 高温多湿を好む。葉は比較的柔らかいが、縁にトゲのあるものが多い。花は2列に平たくつくもの、枝のようにつくもの。

置き場	1-3 明るい室内	4-6 半日陰	7-12 明るい室内
水やり	乾かし気味	筒に水をやり	乾かし気味

Tillandsia

チランジア

パイナップル科

原産地 熱帯アメリカ
越冬温度 3
ふやし方 株分け
用土 水ゴケ
肥料 とくに必要ないが、月に1回霧吹きで薄い液肥をやるのもよい。

半日陰、高温多湿を好む。大型の種類は地面や岩石に、小型の種類は樹幹に着生する。葉の表面に細かい鱗片をもち、水分をとる。

置き場	1-3 明るい室内	4-6 半日陰	7-12 明るい室内
水やり	乾かし気味	ふつつ	乾かし気味



アロカシア

サトイモ科
原産地 熱帯アジア
越冬温度 15
ふやし方 2年に1回植え替え、株分け、さし木、とり木(5-6月)
用土 水ゴケ、水はけのよい土(例赤玉土6川砂またはパーライト3完熟腐葉土1)
肥料 2ヶ月に1回緩効性化成肥料を置く(5-9月)

半日陰、高温多湿を好む。(日本にもクワズイモが分布。これは寒さ乾燥に強い)葉の色彩模様が美しい。水が多過ぎると地下茎が腐るので、土は乾き気味にして葉水を多くやる。

置き場	1-3 明るい室内	4-6 半日陰	7-12 明るい室内
水やり	ひかえめ	ふつつ	ひかえめ

エアプランツ

パイナップル科

原産地 熱帯アメリカ
越冬温度 3
ふやし方 株分け
用土 必要なし
肥料 とくに必要ないが、月に1回霧吹きで液肥をやるのもよい。

チランジア属のうち乾燥に強いものの通称エアプランツと呼んでいる。根は退化して、栄養をとるというよりは、他のものに着生するためにある。葉の表面の細かい鱗片で水分をとるので、1日1回株全体に霧吹きをする。室内に置いておくことが多いが、ヘゴ材に穴を開けて根をつけ、戸外で光にあてて育ててやると花を咲かせる。霜にあてない。飾り方をいろいろ工夫すると楽しい。



アンズリウム アンドレアム

アンズリウム
サトイモ科

原産地 熱帯アメリカ、西インド諸島
越冬温度 15
ふやし方 1年に1回植え替え時株分け、とり木(葉のとれたあとが茎状になるので、水ゴケをまく)(5~7月)
用土 水ゴケまたは水はけ水もちのよい土(例赤玉土6完熟腐葉土3川砂1)
肥料 2ヶ月に1回緩効性化成肥料を置き、月に1回液肥をやる(5~9月)

半日陰、高温多湿を好む。白や赤のハート型の部分はハウで、尻尾のような花穂をもつ。夏冬の乾燥時は葉水をやる。栽培に適した温度は18以上なので、温度が低いと花が咲かない。寒さには充分注意。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
置き場	明るい室内			半日陰			明るい室内				
水やり	ひかえめ			ふつつ			ひかえめ				



ネペンテス "ヒブリダ"
(和名ヒョウタンウツボカズラ)

ウツボカズラ
ネペンテス科

原産地 マレー諸島
越冬温度 15~18
ふやし方 さし木(長さ10cmで葉が2枚付いているものを使い、水ゴケで包む)(6~7月)
用土 鉢の高さの3分の1まで軽石を入れ、その上に水ゴケとくに必要なし
肥料

光(夏の直射日光を除く)、高温多湿を好む。有名な食虫植物で葉の先のツルに袋がつく。袋の入り口からカヤハエなどの虫をさそう分泌液をだし、落ちこんだ虫を消化し養分とする。日のあたる場所におき、葉水で加湿する。生育には充分な温度と湿度が必要で、温度が低いと袋がつかない。冬は保温に注意。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
置き場	室内・日当たり		日当たり		室内・日当たり						
水やり	ひかえめ		ふつつ		ひかえめ						



カラテア ゼプリナ 'フミリオ'

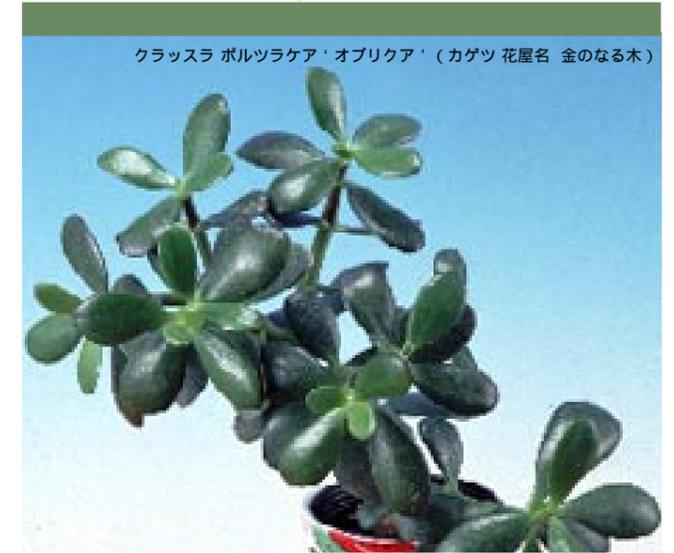
カラテア マコヤナ

カラテア
クズウコン科

原産地 熱帯アメリカ
越冬温度 10
ふやし方 毎年植え替え時株分け(5~7月)
用土 水ゴケ、軽い土(例腐葉土3川砂7)
肥料 2ヶ月に1回緩効性化成肥料を置き、月に1回液肥をやる(5~9月)

半日陰、高温多湿を好む。葉の色彩と独特の矢羽模様が美しい。カラテア ゼプリナは大きくなると1m近くになる。一般にカラテアは小型のものが多い、カラテア マコヤナは20cmくらいである。根が乾くと葉の色が悪くなり巻き上がる。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
置き場	明るい室内			半日陰			明るい室内				
水やり	ひかえめ			ふつつ			毎日			ふつつ	



クラッスラ ボルツラケア 'オブリクア' (カゲツ 花屋名 金のなる木)

クラッスラ
ベンケイソウ科

原産地 南アフリカ
越冬温度 3
ふやし方 1年に1回植え替え、さし芽(春秋)
用土 水はけのよい土(例赤玉土6川砂3完熟腐葉土1)
肥料 2ヶ月に1回緩効性化成肥料を置く(5~9月)

光(夏の直射日光を除く)、乾燥を好む。枝分かれが多い多肉植物で、成長すると大樹のようになり、美しい花が咲く。とても丈夫だが、水を与え過ぎないことと、霜のおりる前には室内に入れること。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
置き場	室内・日当たり		日当たり(雨に当てない)						室内・日当たり		
水やり	乾かし気味		たっぷり与える						乾かし気味		



ソトフオリスラン

オトソラン
ユリ科

原産地 北米、ヨーロッパ(除く全世界)
越冬温度 3(霜にあてない)
ふやし方 2年に1回植え替え、子株のさし木(5~7月)
用土 腐食質に富む土(例赤玉土4完熟腐葉土4川砂2)
肥料 月に2,3回液肥をやる(4~10月)

光を好み、乾燥、低温に強い。葉の脇から長いランナーを出す。白い花を咲かせた後、折り鶴のような子株を作る。葉には斑が入り、中斑(ナカフ)と外斑(ソトフ)がある。生育が早いので、鉢が根で一杯になったら、植え替える。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
置き場	室内・日当たり		日当たり			室内・日当たり					
水やり	ひかえめ		ふつつ			ひかえめ					



カラジウム
サトイモ科

原産地 熱帯アメリカ
越冬温度 5(冬は休眠)
ふやし方 秋になって葉が枯れたら鉢土を乾かして、鉢ごとビニール袋に入れ室内で休眠させる。(4~5月)球根を新しい土で植え替える。
用土 軽い土(例腐葉土3川砂7)
肥料 2ヶ月に1回緩効性化成肥料を置き、月に1回液肥をやる(5~9月)

光(夏の直射日光を除く)、高温多湿を好む。春植え球根植物。球根から長い葉柄を伸ばし、美しい色の細長いハート形の葉をつける。白やピンクの模様がさまざまで寄せ植えにすると美しい。光が不足すると葉色が悪くなる。葉柄が折れるので風にあてない。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
置き場	室内・暖かい場所		室内・日当たり		半日陰		室内・日当たり		暖かい場所		
水やり	休眠中(乾燥)		ふつつ		毎日		ふつつ		休眠中(乾燥)		



クロトンノキ '細黄巻'

クロトンノキ
(和名ベンヨウボク変葉木)
トウダイグサ科

原産地 マレー半島、太平洋諸島
越冬温度 15
ふやし方 植え替え時にさし木(切り口から出る乳色の樹液を洗い落してから)(5~7月)
用土 特になし(例赤玉土6腐葉土3川砂1)
肥料 2ヶ月に1回緩効性化成肥料を置く(5~9月)

光、高温多湿を好む。寒さに弱い。カラフルで油絵の具を塗ったような楽しい葉をもつ。多数の種類があり、派手な葉の色(赤、オレンジ、黄色、黒)や形(広葉、長葉、ラセン葉、細葉)はさまざま。葉の色を美しく保つために、冬はできるだけ窓の近くに置く。夏の直射日光下に置く時は、十分に水やりをする。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
置き場	室内・日当たり			日当たり			室内・日当たり				
水やり	ひかえめ			ふつつ			毎日			ふつつ	



コーヒーノキ
アカネ科

原産地 エチオピア
越冬温度 10
ふやし方 2年に1回植え替え、さし木(5~8月)
用土 水はけ水もちのよい土(例赤玉土6川砂又はパーライト3完熟腐葉土1)
肥料 2ヶ月に1回緩効性化成肥料を置く(5~9月)

光を好むが、30以上の高温を嫌う。観葉になっているのは、アラビアコーヒーノキで、光沢のある深緑色の葉が美しい。上手に育てれば、白い花と赤い実も楽しめる。夏は30以上にならないように、また冬は夜間の保温に注意。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
置き場	室内・日当たり		日当たり			室内・日当たり					
水やり	ひかえめ		ふつつ			毎日			ふつつ		



Cordyline
コレディリネ
(和名センネンボク)
リュウゼツラン科

原産地 東南アジア アフリカなど
越冬温度 12
ふやし方 毎年または2年に1回 植え替え時、さし木 (5~7月)
用土 水はけ水もちのよい土 (例赤玉土6完熟腐葉土3川砂1)
肥料 2ヶ月に1回緩効性化成肥料を置く(5~9月)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12月
置き場	室内・日当たり		日当たり		半日陰		日当たり		室内・日当たり			
水やり	ひかえめ		ふつつ					ひかえめ				



サンセベリア トリファッシータ
'ローレンティ'

Sansevieria
サンセベリア
(和名チトセラン)
リュウゼツラン科

原産地 アフリカ、南アジア乾燥地帯
越冬温度 5 (冬は休眠)
ふやし方 根元から子株をよく出すので、1年に1回は植え替え。葉を長さ5~10cm切り、上下間違えないように3分の1程川砂にさすと発根する。模様を出したいときは株分けを行う。(5~7月)
用土 水はけのよい土(例川砂8腐葉土2)
肥料 2ヶ月に1回緩効性化成肥料を置く(5~9月)

光を好む。葉が肉厚で乾燥に強い。サンセベリア トリファッシータ ローレンティは剣状の葉で、サンセベリア トリファッシータ ゴールデンハーニーの葉は株元で四方に広がる。雲状の模様が面白い。越冬温度が高いが、11月から水を切り、室内に置くと、3 くらいで越冬する。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12月
置き場	室内・日当たり		日当たり		半日陰		日当たり		室内・日当たり			
水やり	休眠中(乾燥)		ひかえめ		ふつつ		ひかえめ		休眠中(乾燥)			



Schefflera
シェフレラ
ウコギ科

原産地 熱帯亜熱帯
越冬温度 5
ふやし方 生長が早いので毎年鉢を大きくする。さし木、とり木で簡単に発根。(5~6月)
用土 粘土質以外ならなんでもよい
肥料 2ヶ月に1回緩効性化成肥料を置く(5~9月)

光(夏の直射日光を除く)を好むが、日陰にも強く、手入れが簡単で育てやすい。一般にカボックと呼んでいるが、カボックはパンヤ科の別な植物のこと。小さな葉が枝先にまとまって出て、斑入り葉もある。大きくなる木だが、幼木でミニ観葉も楽しめる。

シェフレラ 'アルポリコラ'

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12月
置き場	室内・日当たり		日当たり					室内・日当たり				
水やり	ひかえめ		ふつつ					ひかえめ				



シンニンギア "レウコトリカ" (花屋名 断崖の女王)

Sinningia
シンニンギア
イワタバコ科

原産地 ブラジル
越冬温度 3~5
ふやし方 毎年新芽のでる前に植え替えする。塊茎は深く植えると腐りやすいので注意。(4月)
用土 水はけのよい土(例川砂8腐葉土またはピートモス2)
肥料 緩効性化成肥料を置く(5月)

光(夏の直射日光を除く)を好む。大きい塊茎ができ、草丈25cmくらい。全体が白色の毛でおおわれ、葉は銀白色にみえる。春頃咲く筒状の花は濃いオレンジ色で美しい。秋以降気温が下がるにつれ、水を減らして冬は休眠させる。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12月
置き場	室内・日当たり		日当たり		半日陰		日当たり		室内・日当たり			
水やり	休眠中(乾燥)		ふつつ		ひかえめ		休眠中(乾燥)					



ツククサ類 *Commelinaceae* ツククサ科

ゼブリナ ベンドウラ

Tradescantia

Spathiphyllum
スパティフィラム
サトイモ科

原産地 熱帯アメリカ
越冬温度 8~10 以上
ふやし方 1年1回植え替え時に株分け
用土 水はけのよい土(赤玉土6川砂3完熟腐葉土1)
肥料 2ヶ月に1回緩効性化成肥料を置く(5~9月)

高温多湿を好む。ミズバショウによく似た白色の可憐な花が咲き、丈夫で育てやすい。半日陰を好むが、極端に日光が不足したり、根づまりすると花は咲かない。花が緑色になってきたら株元から花茎を切る。葉水をやって、根を加湿にしないこと。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12月
置き場	明るい室内		半日陰					明るい室内				
水やり	ひかえめ		ふつつ					ひかえめ				

光を好み、寒さに強い。半ツル性のものとそうでないものがあるが、半ツル性のものは吊り鉢仕立てによい。性質は強く、育てやすく、ゼブリナ、トラデスカンティア(ゼブリナより大形)、ブライダルベールなどがある。吊り鉢の仕立て直しは簡単で、思い切って切り戻すとすぐ芽がでる。他の鉢に切り落とした茎をさし木する。コップの水も発根する。

Zebrina
ゼブリナ
ツククサ科

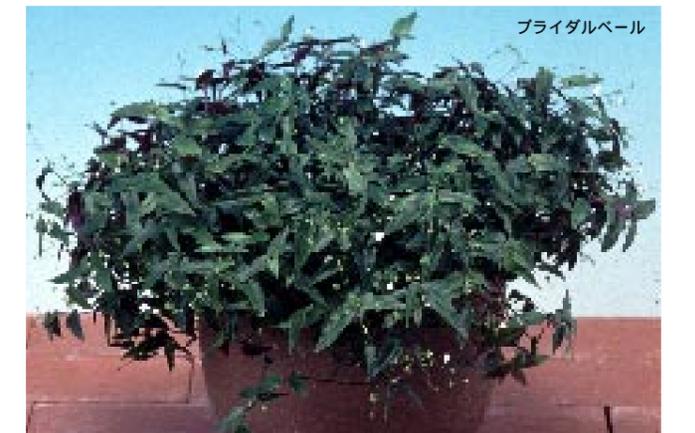
原産地 北アメリカから中央アメリカ
越冬温度 3
ふやし方 さし木、年1回植え替え(4月~9月)
用土 水はけのよい土(例川砂7完熟腐葉土3)
肥料 月に1回液肥をやる(5~9月)

光を好むが、日陰にも強く、寒さに強い。但し光が不足すると斑がぼけてくる。銀白色の葉の中央部と周辺部に紫色の縞が入り、葉の裏も紫色。花も小さく可愛い。葉の縞模様からゼブリナの名がついた。水は必ず株元にかける。

Tradescantia
トラデスカンティア
ツククサ科

原産地 南アメリカ
越冬温度 3
ふやし方 さし木、年1回植え替え(4月~9月)
用土 水はけのよい土(例川砂7完熟腐葉土3)
肥料 月に1回液肥をやる(5~9月)

光を好むが日陰にも強く、寒さに強い。ゼブリナに似ているが、より大形で茎も太く、葉も大きくて少し肉厚。少し乾燥気味に育てる。水は必ず株元にかける。



Gibasis pellucida
ブライダルベール
ツククサ科

原産地 熱帯アメリカ
越冬温度 3
ふやし方 さし木 (先端を5cmほど切り10本ほど束ねて鉢にさす)(5~10月) 毎年植え替え時に株分け(4月~9月)
用土 水はけのよい土(例川砂7完熟腐葉土3)
肥料 月に1回液肥をやる(5~9月)

光(夏の直射日光を除く)を好み、寒さに強い。細い針金状の茎に濃い緑の小さな葉がこんもりと茂り、小さな白い花をよくつけるので花嫁のベールと呼ばれる。真夏は花が少ない。花は昼開き、夜は閉じる。夏の乾燥時は葉水をやる。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12月
置き場	明るい室内		半日陰					明るい室内				
水やり	ひかえめ		ふつつ					ひかえめ				

ドラセナ類 *Dracaena* リュウゼツラン科



ドラセナ コンシンナ

明るめの日陰を好む。直射日光の葉やけに注意。葉の形、色彩、模様、樹形がバラエティーに富んでいるので、用途によって選べるのが魅力。ドラセナは根の伸びが早く、鉢の中は細い根ですぐいっぱいになる。夏でも冬でも乾燥しているときは葉水を与える。ドラセナは茎をさしたり、砂の上に横にふせて埋めておくと、ところどころから芽がでる。

Dracaena concinna

ドラセナ
コンシンナ
リュウゼツラン科

原産地 熱帯アフリカ
越冬温度 10
ふやし方 さし木、毎年植え替え(5~8月)
用土 水はけのよい土(例川砂7完熟腐葉土3)
肥料 2ヶ月に1回緩効性化成肥料を置く(5~9月)

ドラセナの中では寒さと強い光に弱い。小型で、剣状の葉の両側に赤や黄の色が入り、スマートで美しく人気がある。地際まで葉がついた株もよいが、下葉が落ちたものは寄せ植えに使うとよい。



ドラセナ ゴッドセフィアーナ

Dracaena surculosa
(=*godseffiana*)

ドラセナ
ゴッドセフィアーナ
(=ドラセナ スルクローサ)
リュウゼツラン科

原産地 熱帯アフリカ
越冬温度 5~10
ふやし方 さし木、毎年植え替え(5~8月)
用土 水はけのよい土(例川砂7完熟腐葉土3)
肥料 2ヶ月に1回緩効性化成肥料を置く(5~9月)

小型のドラセナで細い茎が株元から立上り、日本のアオキに似て斑点の入った小さい葉をつける。寄せ植えに使いやすい。



ドラセナ フラグランス 'マッサンゲアナ'

Dracaena fragrans cv. *Massangeana*

ドラセナ
フラグランス
マッサンゲアナ
リュウゼツラン科

原産地 熱帯アフリカ
越冬温度 5~10
ふやし方 さし木、毎年植え替え(5~8月)
用土 水はけのよい土(例川砂7完熟腐葉土3)
肥料 2ヶ月に1回緩効性化成肥料を置く(5~9月)

幸福の木として売られている。大きさは15cm~150cmくらいまで、さまざまなサイズのものがある。



ネフロレピス 'テディ ジュニア(ツデー)

Nephrolepis
タマシダ
(ネフロレピス)
シノブ科

原産地 熱帯、熱帯亜、温帯
越冬温度 5
ふやし方 毎年植え替え時に株分け(5~9月)
用土 水ゴケまたは水はけ水もちのよい土(例赤玉土6完熟腐葉土3川砂1)
肥料 2ヶ月に1回緩効性化成肥料を置く(5~9月)

タマシダはいろいろの種類が出回っているが、どれも丈夫で育てやすい。夏は直射日光を避け、風通しのよいところに置く。葉が他のものにふれないように少し高いところに置く。冬は乾燥気味にして、時々葉水をやる。

置き場	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12
水やり	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

管理カレンダーの詳細は、最終ページの育て方を参照してください。

フィカス類 *Ficus* クワ科



フィカス エラスティカ
'ロブスター'

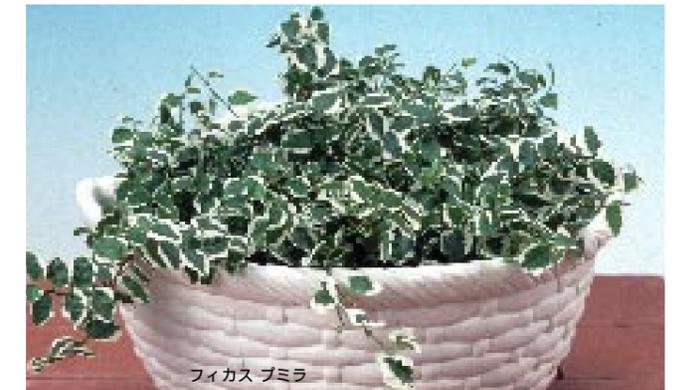
フィカスはイチヂクのこと。熱帯から温帯に分布。茎や葉は傷つくと乳液を分泌。

Ficus elastica

フィカス
エラスティカ
(和名インドゴムノキ)
クワ科

光、高温多湿を好み、日陰にも強く、丈夫で育てやすい。大きくつやのある葉をつくるには十分光にあてる。斑入り種は葉やけに弱い。

原産地 インド北部、マレー半島
越冬温度 5
ふやし方 さし木、とり木(5~8月)2~3年に1回(5~7月)
用土 水はけ水もちのよい土(例赤玉土6川砂2完熟腐葉土2)
肥料 2ヶ月に1回緩効性化成肥料を置く(5~9月)



フィカス プミラ

Ficus pumila

フィカス
プミラ
(和名オオイタビ)
クワ科

高温多湿を好み、日陰にも強く、丈夫で育てやすい。気根をだして樹木の幹を這いのぼる。乾燥に弱い。ヘゴ仕立てやトピアリー仕立ても面白い。冬は乾燥気味にして日のあたる明るい室内で育てる。

原産地 日本の関東以西からベトナム北部
越冬温度 5
ふやし方 さし木(茎の先端で根の出ている部分で切り離し、植える)5~8月)
用土 水はけ水もちのよい土(例赤玉土6川砂2完熟腐葉土2)
肥料 2ヶ月に1回緩効性化成肥料を置く(5~9月)



ディフェンバキア 'カミラ'

Dieffenbachia
ディフェンバキア
(和名シロガスリソウ)
サトイモ科

半日陰を好み、寒さに弱い。葉のとれたあとが竹のような細い茎になり、幅広い大きな葉の白や黄緑の模様が涼し気である。茎の切り口から出る液はかぶれるので注意。

原産地 熱帯アメリカ
越冬温度 15
ふやし方 さし木(5~8月)1~2年に1回植え替え(5~7月)
用土 水はけのよい土(例川砂7完熟腐葉土3)
肥料 2ヶ月に1回緩効性化成肥料を置く(5~9月)

置き場	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12
水やり	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

フィカス ベンジャミナ

Ficus benjamina

フィカス
ベンジャミナ
クワ科

原産地 インド、東南アジア
越冬温度 5
ふやし方 さし木(5~8月)2~3年1回植え替え(5~9月)
用土 水はけ水もちのよい土(例赤玉土6川砂2完熟腐葉土2)
肥料 2ヶ月に1回緩効性化成肥料を置く(5~9月)

光(夏の直射日光を除く)、高温多湿を好む。日陰にも強く、丈夫で育てやすい。幹は灰白色で、子株のときは細工がしやすく、スタンダード作りをしたり、寄せて三つ編みにしたり、リングにしたり楽しめる。斑入りや葉色の種類もいろいろあり、大変人気がある。

置き場	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12
水やり	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12



Ceropegia
ハートカズラ
ガガイモ科

原産地 南アフリカ
越冬温度 5~7
ふやし方 ムカゴ、さし木
用土 吊り鉢向きの土(例完熟腐葉土4パーライト2バ-ミキュライト2)
肥料 月に1回液肥をやる(5~9月)

光を好み、乾燥に強い。ツル性で多肉質の葉はハート形で愛らしい。葉のつけ根が太ってムカゴができ、土につくと根と芽を出すので、こんもりとした鉢にしたいときはツルを持ち上げて土の上に置き、根がたくさんできるようにしてやる。加湿に気をつける。

置き場	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月
水やり	室内・日当たり 半日陰 室内・日当たり

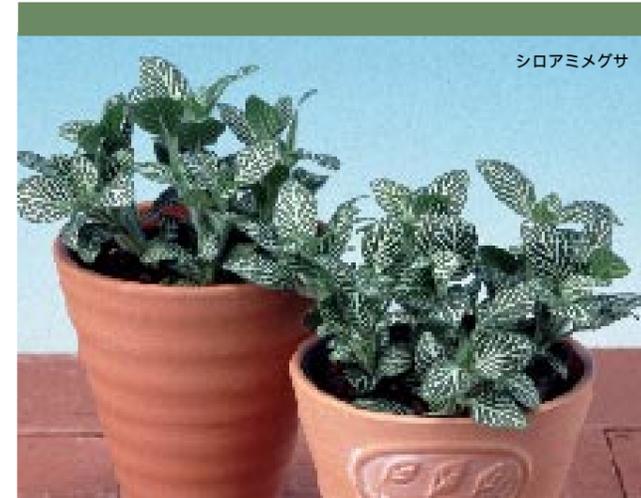


Pachira
パキラ
パンヤ科

原産地 熱帯アメリカ
越冬温度 5~7
ふやし方 さし木(5~8月)
用土 水はけ水もちのよい土(例赤玉6川砂2完熟腐葉土2)
肥料 緩効性化成肥料を置く(5月)

光を好むが、日陰にも強く、掌をひろげたような美しい葉や幹の根元がふくらんだ樹形が魅力。丈夫で育てやすい。種子はカイエンナッツと呼ばれ食用、本来は20mくらいの大木になる。

置き場	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月
水やり	明るい室内 半日陰 明るい室内



Fittonia
フィトニア
(和名アミメグサ)
キツネノマゴ科

原産地 南アメリカアンデス山系
越冬温度 10
ふやし方 さし木(5~8月)、株分け(5~6月)
用土 ハイドロボールまたは水はけ水もちのよい土(例赤玉6川砂2完熟腐葉土2)
肥料 2ヶ月に1回緩効性化成肥料を置き、月に1回薄い液肥をやる(5~9月)

半日陰、高温多湿を好む。乾燥と低温に弱いので冬の管理に注意。卵形の葉に赤や白の網目模様が美しいのでアミメグサと呼ばれる。ベニアミメグサは室温で冬を越せる。地面をほうように茎が伸びるため、ミニ観葉としてハイドロカルチャーで使われる。戸外で梅雨や秋雨にあてないようにする。10月から乾燥気味にして、保温に注意。

置き場	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月
水やり	明るい室内 日陰~半日陰 明るい室内



Pteris
プテリス
(和名イノモトソウ)
ワラビ科

原産地 熱帯、亜熱帯(九州にもある)
越冬温度 5
ふやし方 株分け
用土 水はけのよい土(例川砂3完熟腐葉土7)
肥料 月に2回液肥をやる(5~9月)

半日陰を好み、乾燥に弱い。小型ですっきりとした葉は涼し気で、いろいろの種類があるので、プテリスだけの寄せ植えも面白い。プテリスの仲間には日本にもあるので、育てやすい植物といえるが、乾燥時には葉水を欠かさない。

置き場	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月
水やり	明るい室内 日陰~半日陰 明るい室内



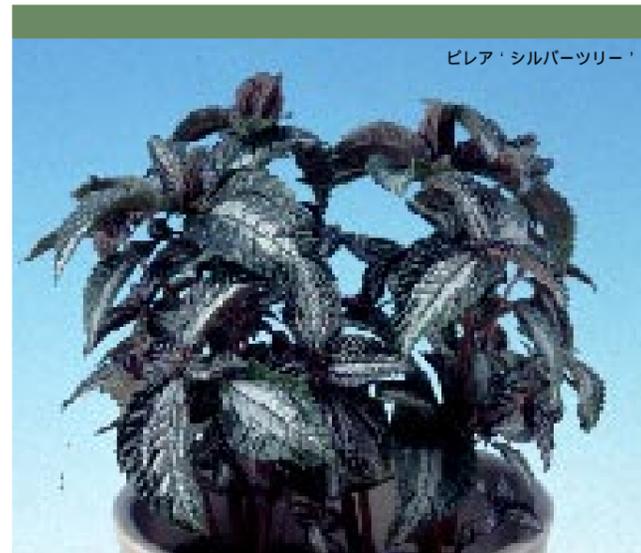
ヒポエステス フィロスタキア

Hypoestes phyllostachia
ヒポエステス
(和名ソバカスソウ)
キツネノマゴ科

原産地 マダガスカル
越冬温度 10~12
ふやし方 さし木
用土 水はけ水もちのよい土(例赤玉土6完熟腐葉土3川砂1)
肥料 2ヶ月に1回緩効性化成肥料を置く(5~9月)

光を好む。葉の桃色や白色の斑が面白い。新しい葉が美しいので、茎が伸び過ぎたら切り戻し、新しい葉を出す。

置き場	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月
水やり	室内・日当たり 半日陰 室内・日当たり



ピレア 'シルバーツリー'

Pilea
ピレア
イラクサ科

原産地 熱帯、亜熱帯
越冬温度 7~8
ふやし方 さし木(5~9月)
用土 水はけ水もちのよい土(例赤玉6川砂2完熟腐葉土2)
肥料 月に1回液肥をやる(5~9月)

日陰に強く、寒さに強い。小型で草丈が低く、年中変わらない姿を楽しむことができる。ピレア カディエレイはアルミニウム プランツとよばれ、光沢のある銀白色の斑をもつ。強い直射日光は葉やけをおこすので注意。

置き場	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月
水やり	明るい室内 半日陰 明るい室内



ベゴニア類 Begonia シュウカイドウ科

根茎性ベゴニア

木立性ベゴニア

Begonia
ベゴニア
シュウカイドウ科

原産地 熱帯、亜熱帯(オーストリア除く)
越冬温度 8
ふやし方 さし木(4~6月)
用土 腐食質に富む土(赤玉4腐葉土またはビートモス4川砂またはパーライト2)
肥料 2ヶ月に1回緩効性化成肥料を置く(5~9月)

半日陰、高温多湿を好む。ベゴニアには葉の色、模様の美しいものがたくさんあり、茎が立つタイプ、根がはうタイプに観葉とされているものが多い。夏の乾燥時には霧吹きで葉水を与える。

置き場	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月
水やり	明るい室内 半日陰 明るい室内

置き場	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月
水やり	明るい室内 半日陰 明るい室内



ヘデラ カナリエンシス

Hedera
ヘデラ
ウコギ科

原産地 北アフリカ
越冬温度 3~5
ふやし方 さし木(4~9月)
用土 水はけ水もちのよい土(例赤玉土6完熟腐葉土3川砂1)
肥料 2ヶ月に1回緩効性化成肥料を置く(5~9月)

光を好むが、日陰、乾燥にも強い。熱帯植物ではないので、寒さにも強く丈夫。斑や葉の形などでたくさんの種類がある。とくに耐寒性に優れているのがヘデラ ヘリックス(アイビー)。吊り鉢など寄せ植えに向き、どんな植物と合わせてもよい引き立て役となる。

置き場	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月
水やり	日当たり 半日陰 日当たり

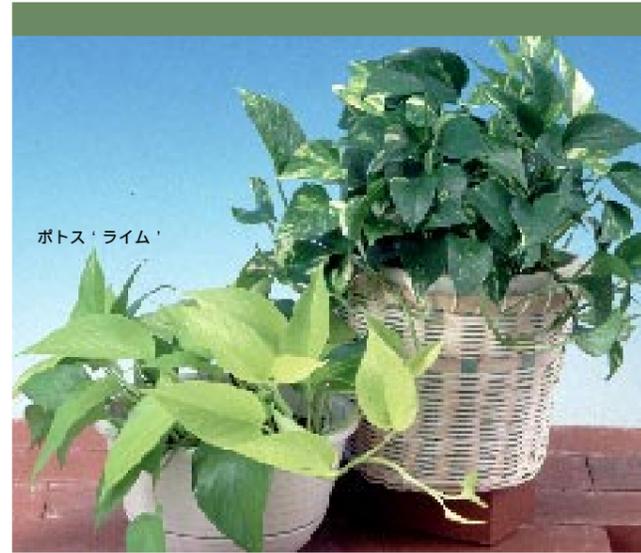
観葉植物の育て方



Peperomia
ペペロミア
コショウ科
原産地 熱帯、亜熱帯
越冬温度 10
ふやし方 さし木、葉ざし、株分け(5~9月)植え替えは根鉢を崩さずにおこなう(5~9月)
用土 水はけのよい土(例川砂7完熟腐葉土3)
肥料 月に1回液肥をやる(5~9月)

光(夏の直射日光を除く)を好むが、日陰にも強く、育てやすい。葉に模様が入り、多くは多肉質で乾燥に強い。夏は蒸れに注意する。

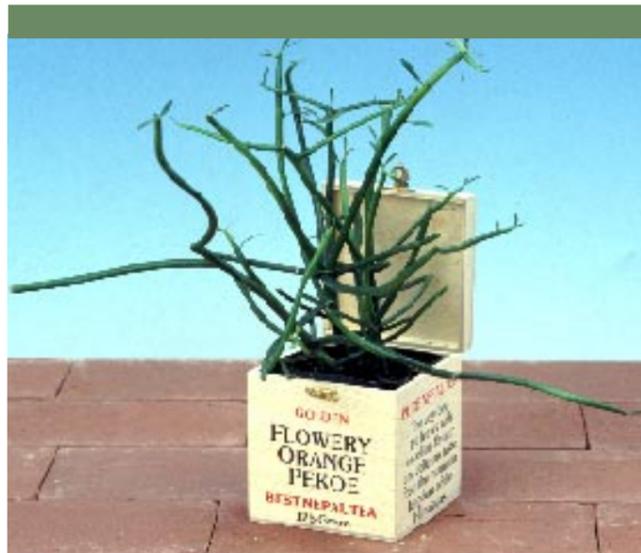
置き場	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月
水やり	明るい室内 半日陰 明るい室内
	ひかえめ ふつつ ひかえめ



Epipremnum
ポトス
サトイモ科
原産地 東南アジア、南太平洋諸島
越冬温度 5~7
ふやし方 (温度が12度以上あれば)さし木(水さし)
用土 水はけ水もちのよい土(例赤玉土6完熟腐葉土3川砂1)
肥料 月に1回液肥をやる(5~9月)

光(夏の直射日光を除く)を好むが、日陰にも強い。高温多湿を好むが、乾燥にも強く、丈夫で育てやすい。水さしで発根するので、ツルがのびすぎて、下葉が枯れてきたら、さし木で新しく鉢を作り直す。

置き場	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月
水やり	明るい室内 半日陰 明るい室内
	ひかえめ ふつつ ひかえめ

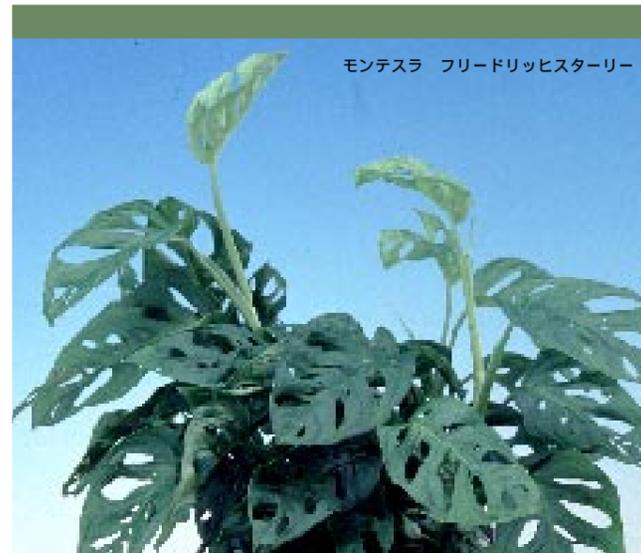


Euphorbia tirucalli
ミルクブッシュ
(和名アオサンゴ)
トウダイグサ科
原産地 南アフリカ
越冬温度 5~8
ふやし方 さし木(5~8月)
用土 水はけのよい土(例川砂7完熟腐葉土3)
肥料 月に1回液肥をやる(5~9月)

光を好み、乾燥に強い。緑色の小さな葉はすぐ落ちてしまい、枝はサンゴのように伸びていく。傷つけると出てくる乳色の樹液は、皮膚につくとかぶれることがある。光のあたる方向に生長するので、時々鉢を回してやる。

置き場	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月
水やり	室内・日当たり 半日陰 室内・日当たり
	ひかえめ ひかえめ

管理カレンダーの詳細は、最終ページの育て方を参照してください。



Monstera
モンテスラ
サトイモ科
原産地 熱帯アフリカ、中央アメリカ
越冬温度 8
ふやし方 さし木(5~8月)大きくなり鉢とのバランスがくずれたら植え替え(5~7月)ヘゴにはわせるときは水ゴケ、水はけ水もちのよい土(例赤玉土6完熟腐葉土3川砂1)
肥料 月に1回液肥をやる(5~9月)

半日陰、高温多湿を好む。大きな葉は羽状に深く裂けたり、穴があいたりする。古くから知られている植物で、その特異な姿から「怪物」に由来する名前がついた。つる性で他のものに附着して伸びていく。冷暖房の風に当たると葉が黒ずむ。

置き場	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月
水やり	明るい室内 半日陰 明るい室内
	ひかえめ ふつつ ひかえめ



植物の原産地を知り、どんな場所で、どんな温度や光や湿度で育っていたものかを知ることが大切です。

置き場

光と温度の条件で選びます。日なた、日陰、窓辺、カーテン越しなど光の条件がありますが、季節によって強さが違ってだけでなく、家庭において光のあたる場所は限られていますので、置き場を上手に選んで、交代で光にあててやるように場所のやりくりをして下さい。

1年管理カレンダー置き場の説明

日当たり
半日陰(ヨシズ、寒冷紗、スダレなどで遮光した場所、樹の下のこもれ日の当たる場所など)
室内・日当たり(ガラス越しの光が当たる窓際)
明るい室内(レースのカーテン越しの光が当たる窓際)

夏は直射日光を避ける

冬は夜間や明け方の冷え込みに注意

(越冬温度を参考に、カーテンで温度調整、鉢を部屋の中央に置いたり、ダンボール箱の中に入れる)

冷暖房の風にあてない

急に場所を変えない

水やり

置き場所の日あたり、風とおし、鉢の素材、そして用土で乾燥度合いが違います。水やりで気をつけるのは、1回あたりの水量ではなく回数のことです。

1年管理カレンダー水やりの説明(大体の目安です)

ふつつ(土の表面が白く乾いたら水を与える)
ひかえめ(土の表面が白く乾いてから、2日待ってから与える)
乾かし気味(土の表面が白く乾いてから、5日くらい待ってから与える)

時々戸外や浴室で上からシャワーをかける

(葉についたホコリをとったり、葉裏のハダニやカイガラムシの予防をする、冬は水温を室温に調整する)

冬は土が白くなって、2、3日待ってから水やりをする

(鉢土の乾燥度を高めると、越冬しやすい)

湿度が低いときは、霧吹きで葉水をする

肥料

観葉植物は高温期(5~9月)によく生育するので、その時に肥料を与える。有機質の油かす、牛ふん、鶏ふんなどの肥料は臭いがあるので、無機質の化成肥料の方が室内に向いている。

化成肥料にはふつうの化成肥料(1週間~10日効く)と緩効性(1~3ヶ月効く)肥料と、速効性の液肥がある。

病虫害

カイガラムシ虫

小さい虫で体を綿や貝殻のようなものでおっている。発生は1年中、とくに高温乾燥時に多い。樹液を吸うので生育を悪くし排泄物が茎葉についてすす病の原因になる。よく枝葉を見て、葉ブラシでこすり落とす。

ハダニ

ルーペで見ないとわからないくらい小さい虫で高温乾燥時に発生しやすく、葉の裏にクモの巣のように細い糸をはる。葉について樹液を吸い、その部分は葉緑素が抜ける。

その他

アブラムシ、ナメクジ、葉焼け、根腐れ、うどんこ病に注意。

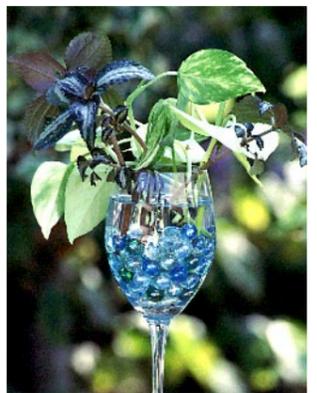
ふやし方

株分け

5~7月頃植え替え時におこなう。根が痛むので地上部も刈りこむ。根が活発に伸び始めるまで半日陰で葉水を与え管理する。

さし木

さし木には頂芽ざし、葉ざし、茎ざしなどがあり、植え替え時に切り落したものを使ってよい。ミニ観葉を作るのもよい。さし床には清潔なもので肥料の含まれていない用土(例パーライト、パーミキュライトなどを単用で十分に湿らせておく)を使う。水さしで発根するものも多い。



とり木

5~7月頃早く観賞できる株にしたいとき、大きく育ち過ぎた木を小さく戻すときにおこなう。環状剥皮法(幹の表皮を環状にはぎ取り、水ゴケを巻いて発根させる)

